

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2017 年 8 月 9 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団  
会長 喜多悦子 殿

2017 年度地域啓発活動助成  
活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

- 1 活動助成金額 金 290,000 円
- 2 活動課題 市民公開セミナー開催による緩和ケア普及啓発活動
- 3 収支決算書 [様式 D-3]
- 4 支出証拠書類綴

活動団体名： 特定非営利活動法人 JORTC

活動者（助成申請者）名： 坪井 正博

## I. 活動の目的

本活動の目的は一般市民に緩和ケアを知ってもらい、積極的に活用してもらうことである。

## II. 活動の内容・実施経過

### 1. 活動の内容

本活動の内容は講師の講演および参加者からの質問に講師らが回答する Q&A セッションによる市民公開セミナーの開催である。

1) タイトル：第 5 回 JORTC 市民公開セミナー in 札幌

『緩和ケアを知ろう！～あなたに伝えたい、緩和ケアの今～』

2) 日時：2017 年 5 月 27 日（土）13:00～16:00

3) 場所：ACU-A 中研修室 1206

〒060-0004 北海道札幌市中央区北 4 条西 5 丁目

アスティ 45 ビル 12 階

4) 対象：患者、患者の家族・友人、医療従事者、その他一般市民

5) 定員：100 名

6) 参加費：無料

7) プログラム：

Session 1 特別講演

上村 恵一 先生 市立札幌病院 精神医療センター

「がんと向き合い 自分らしく生きる

～がんと共に生きるために、そしてがんになった家族を支えるために～」

川村 三希子 先生 札幌市立大学 看護学部 教授

「緩和ケア～がんになっても自分らしく暮らすための工夫」

久原 幸 先生 株式会社ファーマホールディング 事業統括本部

「痛みどめの薬との上手なつきあい方」

安井 博規 先生 東京大学医科学研究所附属病院 緩和医療科

「がんだけではない！緩和ケア」

司会 古賀 真美 氏 NPO 法人 JORTC 理事/

認定 NPO 法人 キャンサー ネット ジャパン プロジェクト  
トマネージャー

Session 2 Q&A セッション

座長 坪井 正博 先生 JORTC 理事長/

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 科長

### 2. 実施経過

1) 2017 年 1 月 開催概要（講師・会場）決定

2) 2017 年 2 月 後援依頼開始 下記 8 団体の後援が得られた。

厚生労働省、北海道、札幌市、特定非営利活動法人日本緩和医療学会、

一般社団法人日本癌治療学会、公益社団法人日本臨床腫瘍学会、  
認定 NPO 法人がんネットワークジャパン、北海道新聞社

- 3) 2017年3月 広報活動開始 SNS、ポスター・パンフレット掲示・配布依頼  
参加者募集開始
- 4) 2017年5月 配布資料作成  
プログラム・講師紹介、講演資料、参加者アンケート、講師への質問票、JORTC パンフレット、市民公開セミナーQ&A 冊子、  
寄附・賛助会員募集案内  
セミナーの実施
- 5) 2017年6月 参加者アンケートまとめ  
ホームページに開催報告掲載

### III. 活動の成果

地縁の少ない地方での開催にも関わらず、定員を超える 119 名より申込があり、当日は 96 名が参加した。

セミナー後に実施したアンケートでは、参加者の約 79%の 76 名より回答が得られ、セミナーの理解度、満足度を測る項目において、高い理解度、満足度が示された。よって、緩和ケアについて知ってもらうという本事業の目的は、ほぼ達成されたと考えて良いと思われる。

セミナーの理解度を測るためのアンケート項目の結果は、以下の通りである。(％は小数点第 2 位を四捨五入、参考資料 1 参照)

- ・「講師の発表を聞いての感想」について、「大変参考になった」「参考になった」と回答した者の割合 89.5%

- ・「セミナーに参加して、『緩和ケア』についての理解が深まったか」という問いに対し、「大変深まった」「深まった」と回答した者の割合 86.8%

- ・「セミナーに参加して、『緩和ケアの臨床研究』についての理解が深まったか」という問いに対し、「大変深まった」「深まった」と回答した者の割合 71.1%

また、本事業は北海道新聞 2017 年 5 月 30 日 19 面「地域の話題」（参考資料 2 参照）に写真入りで記事掲載され、札幌および周辺地域の同紙読者に緩和ケアの意義や課題が紹介された。

### IV. 今後の課題

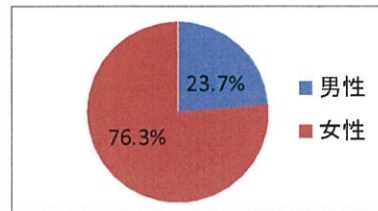
アンケートの結果、「緩和ケア」についての理解度を測る項目に比べ「緩和ケアの臨床研究」についての理解度を測る項目の結果が低かった。緩和ケアにおいて重要な臨床研究や、臨床研究支援組織である JORTC の役割について知っていただくことも本事業の目的であるので、今後はより入念に講師と講演内容の打合せを行うなどして、「緩和ケアの臨床研究」についての理解度の向上を図りたい。

- V. 活動の成果等の公表予定 (学会、雑誌)  
なし

## 1. 参加者

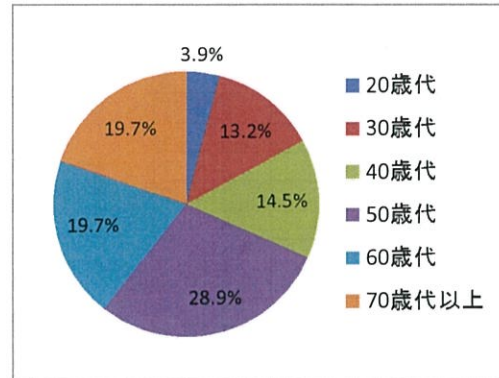
### 1. 性別

男性	18
女性	58
計	76



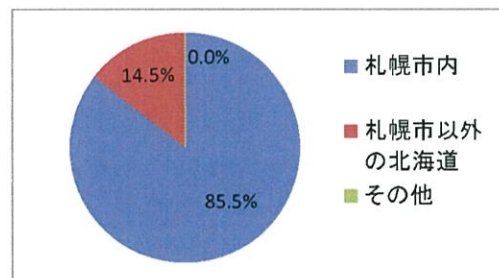
### 2. 年代

20歳未満	0
20歳代	3
30歳代	10
40歳代	11
50歳代	22
60歳代	15
70歳代以上	15
無回答	0
計	76



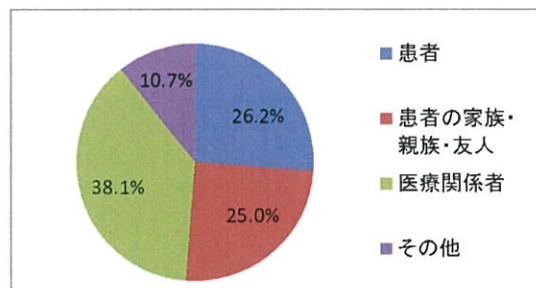
### 3. 住所

札幌市内	65
札幌市以外の北海道	11
その他	0
計	76



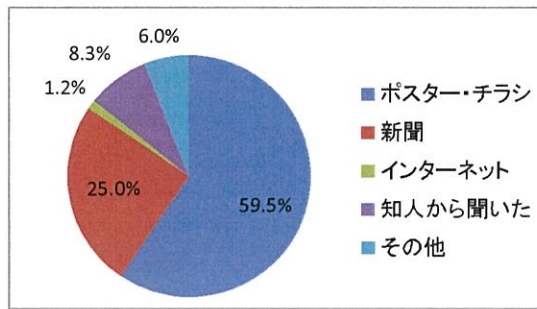
### 4. 立場(複数回答可)

患者	22
患者の家族・親族・友人	21
医療関係者	32
その他	9
計	84



5. このセミナーをどのように知ったか(複数回答可)

ポスター・チラシ	50
新聞	21
インターネット	1
知人から聞いた	7
その他	5
計	84



5.-a ポスター・チラシを見た場所・施設(複数回答可)

北海道がんセンター	4
「市民と共に創るホスピスケアの会事務所」	3
区役所	2
市立札幌病院	2
北海道大学病院	1
NTT札幌病院	1
勤務先(病院)	3
勤務先(訪問看護ステーション)	1
勤務先	1
病院	3
病院内緩和ケア委員会	1
石垣先生講演会	1

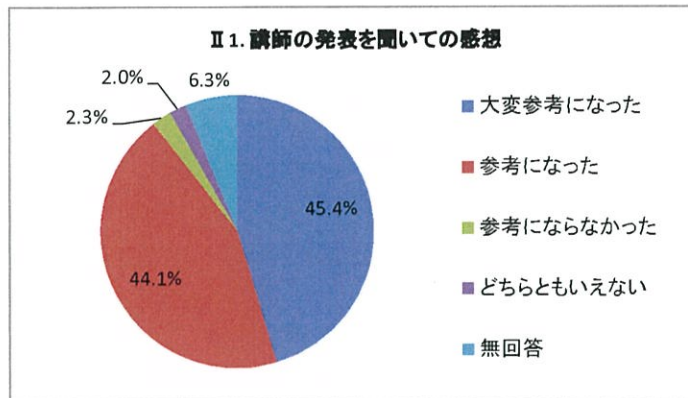
5.-b 閲覧したインターネットのサイト(複数回答可)

どうしんウェブ	1
---------	---

## II. 内容

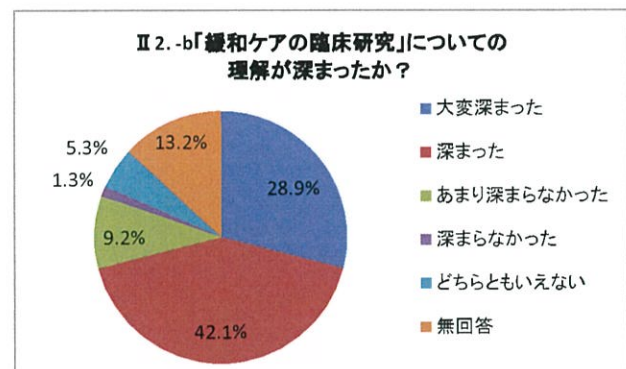
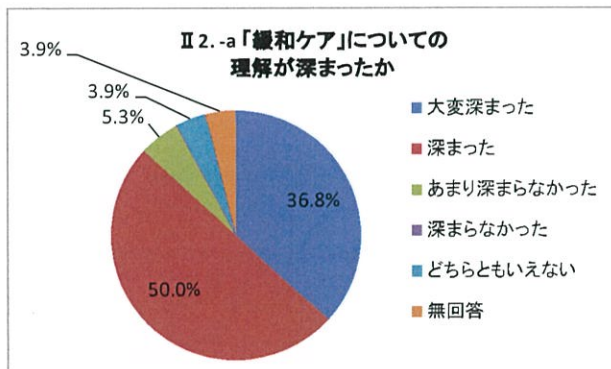
### 1. 各講師の発表について

「タイトル」講師名（サブタイトルは省略させていただきます）	大変参考になった	参考になった	参考にならなかった	どちらともいえない	無回答
「がん向き合い 自分らしく生きる」上村恵一 先生	35	37	0	2	2
「緩和ケア」川村三希子 先生	31	38	2	4	1
「痛み止めの薬との上手なつきあい方」久原 幸 先生	35	31	4	0	6
「がんだけではない！緩和ケア」安井博規 先生	37	28	1	0	10
計	138	134	7	6	19



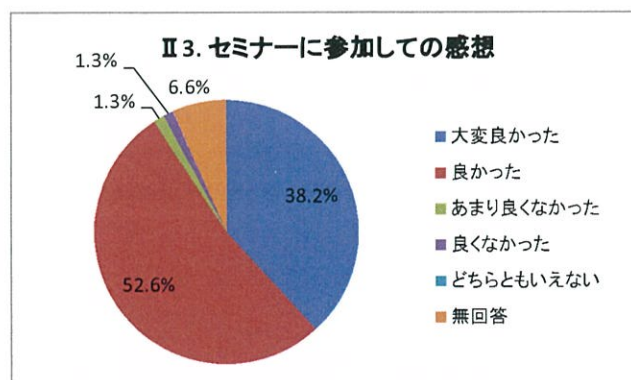
### 2. 理解度

	大変深まった	深まった	あまり深まらなかった	深まらなかった	どちらともいえない	無回答
セミナーに参加して、「緩和ケア」についての理解が深まりましたか？	28	38	4	0	3	3
セミナーに参加して、「緩和ケアの臨床研究」についての理解が深まりましたか？	22	32	7	1	4	10
計	50	70	11	1	7	13



### 3. セミナーに参加しての感想

大変良かった	29
良かった	40
あまり良くなかった	1
良くなかった	1
どちらともいえない	0
無回答	5

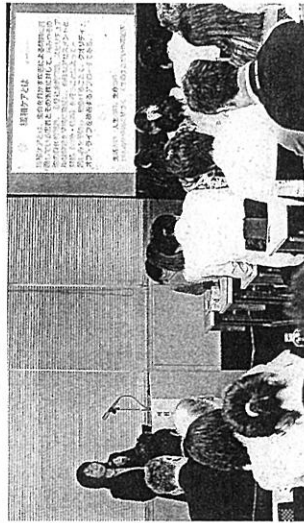


# がんの苦しみ相談を

## 札幌で緩和ケアセミナー

がんなどの病気に伴う体  
や心の痛みを和らげる緩和  
ケアに関するセミナーが27  
日、札幌市中央区の研修施  
設で開かれ、医師や看護師  
ら4人が緩和ケアの効果や  
ケアを受ける患者の心構え  
について説明した。写真  
＝。

東京のNPO法人JOR  
TC(日本がん研究・治療  
機構)が主催し、札幌での  
開催は初めて。市民約10



0人が参加した。

札幌市立大看護学部の川  
村三香子教授(56)は「緩和  
ケアとは、命を脅かす疾患  
のある患者と家族に対し、  
体や心の痛みを和らげ、生  
活の質を改善すること。医  
師や看護師らチームで行  
い、家でどう過ごすか痛み  
が良くなるかなどを助言す  
る」と紹介した。

さらに「緩和ケアは早く  
受けた方が生存期間が長く  
なるが、受けたくても受け  
られなかった患者が4割い  
る」と述べ、提供する医療  
機関の少なさや、認知度が  
低いことなどの問題点を指  
摘した。

市立札幌病院精神医療セ  
ンター副医長の上村恵一医  
師(41)は「がんになったら  
治療内容や今後の人生への  
考え方を積極的に医師に  
伝えほしい」と訴えた。

(上野香織)